



富士見市立針ヶ谷小学校の取組

1 本校の概要

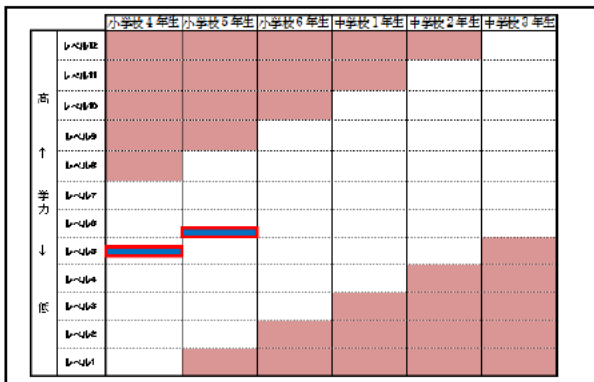
本校は開校 34 年目。児童数 316 名、14 学級の中規模校である。東武東上線みずほ台駅西側から国道 463 号線にかけて学区が広がり、学区内には公園も多く、落ち着いた環境である。保護者の学校教育に対する関心は高く、学校を支援する活動(学習ボランティア・地域清掃・花壇整備等)へ参加者も多く、協力的である。家庭状況は一様ではないが、子どもとのふれあいを大切にし、愛情をもって育てている家庭が多い。子どもたちは明るく穏やかで、生活態度も比較的落ち着いている。学校教育目標「自分で考える子・助け合う子・じょうぶな子」の実現を目指し、「子どもたちが期待に胸をふくらませて登校し、笑顔で生活する学校」「子どもたちが生き生きと学び合い、生きる力をはぐくむ学校」づくりを推進している。

2 平成 28・29 年度の結果

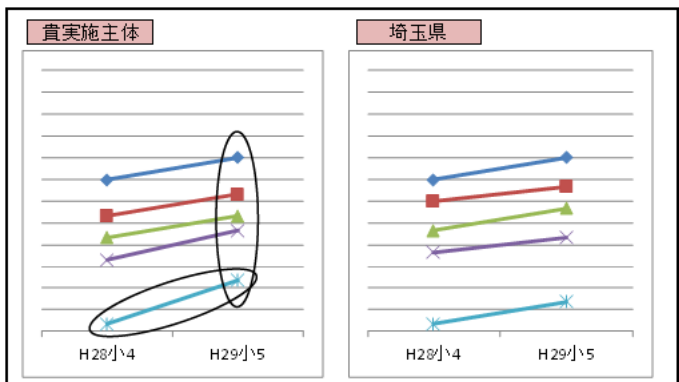
小学校 4 年生→小学校 5 年生の取組

(1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



- 下位層の学力が大きく伸びている。
- 上位と下位の差が縮まってきている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 効果的な家庭学習・家庭との連携

学校でも取り組んでいるが、家庭学習では前学年で使っていたプリントを行わせていた。次の単元に必要な既習事項が入っている家庭学習課題を出すことで、スムーズに授業に取り組むことができた。また、家庭と連携をすることで児童の苦手の箇所を共有することができる。学校・家庭双方から児童へ働きかけることで学力向上を図った。

イ 意図的な少人数のグループ分け

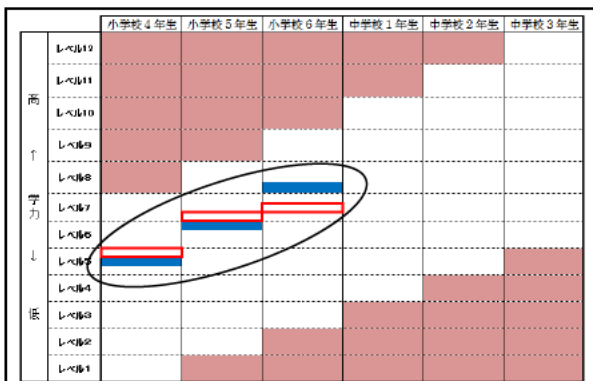
普段は、どんどんコース、考えるコース、じっくりコースと 2 学級を 3 グループに分け、少人数での授業を行っていた。ただ、単元や児童の実態に合わせて、どんどんコースにじっくりコース 2 つにグループ分けをすることもあった。じっくりグループでは既習事項をしっかり押さえてから授業に入るように心がけていた。



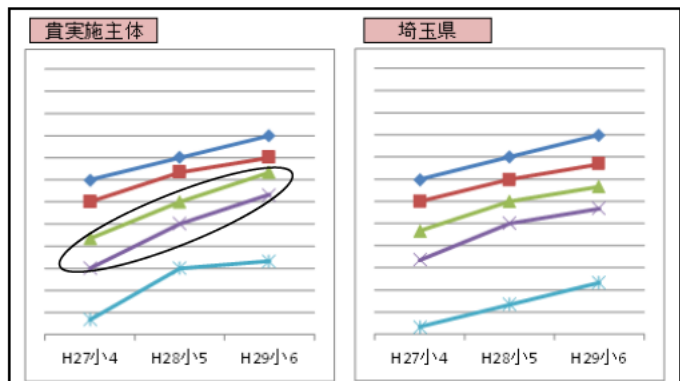
小学校5年生→小学校6年生の取組

(1) 学力の伸びから見られる特徴【国語】

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



- 小4,5年時は県平均を下回っていたが、6年生で県平均を大きく上回った。
- 中位層の学力の伸びが大きい。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 学校課題研究における国語部会の取組

授業の構造化を図るため、授業の展開として、自分で考える(主体的)→グループで考える(対話的)→全体で考える(対話的)→自分で考える(深い学び)という流れで授業を展開した。課題に対して一人一人自分の考えが持てるように工夫した。(自分の考えを持ったときに、なぜそう考えたのか、根拠になる文に線を引いたり、考えを書かせたりする。)また、児童一人一人が活動する時間を多くとった。

イ 学年間の共通理解・共通行動

2クラスが同一歩調で授業に取り組んだ。経験年数2年目と8年目の教員で学年を構成しているが、風通しのよい学年経営を心がけた。明確な課題の設定や板書の活用の仕方等を、若手教員が中堅教員の授業参観を行うことで学んでいた。中堅教員も授業を参観されることで授業改善につなげた。

学校全体での取組

(1) ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり

学校全体で共通理解を図り、「個別の支援や配慮を、最初から全員に向けて行う」「どの子も『わかった』と思える授業」を目指し、学習環境(落ち着いて学習に取り組める教室づくり、板書の工夫等)を整え、授業づくり(学習内容の焦点化・展開の構造化・時間の構造化・場の構造化・指示の出し方の工夫等)に取り組んでいる。

(2) 平成27年度より主体的に取り組める算数プリントを導入

平成27年度より算数ドリルではなく算数プリントを活用している。5~10分ですぐに行える分量で取り組めるプリントを導入した。また、印刷したプリントを分類した棚を廊下に配置したことで、業前、授業中、空き時間、家庭学習等で児童が主体的に活用している。全学年のプリントがあるので前の学年の復習をする児童も多くなる。

(3) 朝の時間帯の活用

算数・国語がんばりタイム等を全学年で行っている。15分程度の時間ではあるが、各学年で工夫をして取り組んでいる。ただ取りくませるだけではなく、説明・丸付け・見直しを行い、児童の苦手、得意な部分を把握し、その後の授業へ活かしていく。